

第24期 〔 自 平成16年4月 1日 〕 営業報告書 至 平成17年3月31日

1. 営業の概況

営業の経過及び成果等

平成16年度の当社を取り巻く環境は、沿線人口の減少、少子高齢化の進展等、依然として厳しい状況にありましたが、沿線の方々の日常生活を支える地域の生活路線として、そして三陸海岸を縦断する観光路線として、安全で安定した輸送を目指し全社を挙げて取り組んでまいりました。また、平成16年3月に策定した経営改善計画の初年度に当る重要な年に当たっており、社員一丸となってこの計画を推進してまいりました。

4月1日には、開業20周年を記念し、これまで沿線環境の美化等にご協力下さった方々へ感謝状を贈呈したほか、イベント列車として「三陸鉄道開業20周年記念号」を運行しました。また、宮古市(4月)、八戸市(7月)等で開業20周年記念写真展を開催し、改めて三陸鉄道をPRしました。

企画列車として、「春の三陸鉄道の旅・お座敷列車さんりくしおかぜ」、「リアス・シーライナー」、「がんばれ釜石シーウェイブRFC号」等を、イベント列車として、「潮干狩り列車」、「納涼親子花火列車」、「ミステリー十五夜列車」、「鮭・酒列車」、「初詣号」、等を運行するとともに、沿線地域で「三鉄健康ウォーキング」、「ミッドナイトウォーキング真崎トンネル」、「三鉄祭」、「ファンクラブの集い」、「氷渡洞探検会」等のイベントを開催し、増収に努めました。

この中で、今年で8回目となり三陸の夏の風物詩として定着した「リアス・シーライナー」は、岩手県及び沿線市町村のご協力を頂き、事前に東京、仙台、八戸方面へPRキャラバンを展開するとともに、沿線地域の観光・歓迎メニューを充実して頂いた結果、好天にも恵まれ、昨年を上回る好調な利用となりました。

観光客誘致に向け、4月と11月には、東京、大阪、名古屋で大手業者を中心にエージ

イベントセールス等を実施しました。また、11月には、地元利用の促進を図るため沿線の小中学校及び高等学校に教育利用セールスを実施し誘客に努めました。

県外エージェント主催による三陸鉄道を利用する団体客は、近年、順調に伸びてまいりましたが、平成16年度も対前年比139.4%の41,235人と好調な利用となりました。

経営改善計画に基づく鉄道事業のスリム化の一環として、10月1日から宮古駅業務を見直し、駅売店との一体化を図りました。また、6月には釜石駅、宮古駅の誘導信号機の改良工事が完成し、使用を開始しました。

地元利用が年々減少しているなか、1月30日には、宮古市で岩手県三陸鉄道強化促進協議会との共催により、「マイレール三鉄・沿線地域30万人運動」シンポジウムを開催しました。岩手県及び沿線市町村のご協力もあり、県内外から約3百名の方々のご参加を頂き、地元利用の促進について活発な意見交換が行われました。これを契機に、沿線の方々のご支援を頂きながら地元利用の促進・増加に積極的に取り組んでまいります。

2月25日には、岩手県のご配慮を頂き、製作を進めてきた新レトロ調車両「さんりくしおさい」が完成し、走行試験、乗務員の訓練等を経て、3月13日から営業運転に入りました。今後、地元団体の利用促進及び観光客誘致等に向け積極的にPRを進めてまいります。

平成16年度は、地元の方々の利用を中心とした一般利用客は昨年引き続き低迷しましたが、県外エージェント主催による三陸鉄道を利用した団体客が大幅に増加したこと等から乗車人員は1,070千人(対前年比100.4%)、旅客運輸収入は392,604千円(消費税込み 対前年比100.4%)となり、乗車人員及び旅客運輸収入は平成2年度以来、14年振りに前年度を上回りました。

鉄道事業、関連事業全体では、業務の見直しや効率化による経費の節減に努め、営業

費は対前年比98.8%の559,993千円、これに固定資産税を加えた経常支出は前年度より8,751千円減の582,584千円(対前年比98.5%)となりました。

営業収益は、関連事業が旅行業の海外団体の落ち込み等もあり対前年比94.3%となりましたが、旅客運輸収入が14年振りに前年度を上回ったこと等から鉄道事業が対前年比100.8%となり、全体では対前年比100.2%の443,352千円、これに営業外収益を加えた経常収益は前年度より498千円増の464,785千円(対前年比100.1%)となり、経常損失は前年度より9,249千円減の117,799千円となりました。経常損失が前年度を下回ったのは、平成11年度以来、5年振りとなりました。

なお、前年度経常損失額127,048千円に相当する額について岩手県から運営費補助金として交付していただいております、その他の特別損益等を加味すると、当期利益は14,958千円となりました。

平成17年度におきましても、三陸沿岸地域の公共交通機関としての使命を果たしていくため、安全輸送とサービスの改善になお一層努めるとともに、岩手県をはじめ沿線市町村のご支援をいただきながら、経営の安定化に向けて努力してまいります。

2. 会社の概況

(1) 主要な事業内容

- ア. 鉄道事業法による旅客運輸並びにこれに関連する事業
- イ. 旅行業法による第2種旅行業
- ウ. 損害保険代理店業
- エ. 物品販売業

(2) 事業所

本 社 盛岡市内丸 10 番 1 号

事務所 宮古総合鉄道事務所

宮古市栄町4番地

久慈鉄道事務所

久慈市川崎町 10 番 20 号

大船渡鉄道事務所

大船渡市盛町馬場 4 番4号

駅 有 人 4 駅 久慈・宮古・釜石・盛

無 人 21 駅 陸中宇部・陸中野田・野田玉川・堀内・白井海岸・
普代・田野畑・島越・小本・撰待・田老・佐羽根
一の渡・平田・唐丹・吉浜・三陸・甫嶺・小石浜
綾里・陸前赤崎

営業所及び店舗

三鉄ツアーリスト(旅行業) 宮古駅内、久慈駅内

リアスボックス(物品販売業) 宮古駅内

(参 考)

町村立等の観光センター 陸中野田・普代・田野畑・島越・小本・
設置箇所 田老・三陸・綾里の8駅

(3)株式の状況

ア.発行する株式の総数	100,000株
イ.発行済株式総数	30,000株
ウ.当期末株主数	57名

主 な 株 主 名	所 有 株 式 数 (持 株 比 率)	当社の当該株主への出資状況
岩 手 県	14,400株(48.0%)	0
(株)岩手銀行	1,200株(4.0%)	0
大 船 渡 市	1,150株(3.8%)	0
新 日 本 製 鐵 (株)	1,000株(3.3%)	0
東 北 電 力 (株)	1,000株(3.3%)	0
宮 古 市	650株(2.2%)	0
久 慈 市	650株(2.2%)	0
釜 石 市	650株(2.2%)	0

(4)従業員の状態

区 分	従 業 員 数	前 期 末 比 増 減	平 均 年 齢	平 均 勤 続 年 数
男 性	66名	4名減	41.6才	16年10ヶ月
女 性	3名	—	32.6才	9年 9ヶ月
計	69名	4名減	41.1才	16年 6ヶ月

(注)この外に、臨時雇用社員が14名おります。

(5)営業成績及び財産の状況の推移

区 分	14年度 (第22期)	15年度 (第23期)	16年度 (第24期)
営 業 収 入	462,442千円	442,309千円	443,352千円
当 期 利 益			14,957千円
当 期 損 失	35,503千円	22,382千円	
1株当り当期利益			498円
1株当り当期損失	1,183円	746円	
資 産 合 計	359,363千円	334,714千円	458,101千円
資 本 合 計	219,210千円	196,828千円	211,786千円

(6)取締役及び監査役

(平成17年3月31日現在)

氏 名	会社における地位	兼 務 の 状 況
増 田 寛 也	取 締 役 会 長	岩 手 県 知 事
熊 坂 義 裕	取 締 役 副 会 長	宮 古 市 長
甘 竹 勝 郎	取 締 役 副 会 長	大 船 渡 市 長
山 内 隆 文	取 締 役 副 会 長	久 慈 市 長
小 沢 和 夫	取 締 役 副 会 長	釜 石 市 長
竹 澤 久 嗣	代 表 取 締 役 社 長	
山 口 一 彦	代 表 取 締 役 常 務	
谷 藤 裕 明	取 締 役	盛 岡 市 長
野 中 良 一	取 締 役	田 老 町 長
伊 達 勝 身	取 締 役	岩 泉 町 長
上 机 莞 治	取 締 役	田 野 畑 村 長
深 渡 宏	取 締 役	普 代 村 長
金 澤 勘 兵 衛	取 締 役	岩 手 県 漁 業 協 同 組 合 連 合 会 代 表 理 事 会 長
竹 内 重 徳	取 締 役	岩 手 県 副 知 事
山 口 和 彦	取 締 役	岩 手 県 地 域 振 興 部 長
永 野 勝 美	監 査 役	(株) 岩 手 銀 行 代 表 取 締 役 頭 取
佐 藤 安 紀	監 査 役	(株) 北 日 本 銀 行 代 表 取 締 役 頭 取

(注) 当営業年度中に、中川正勝氏、徳本耕造氏が取締役を退任しております。